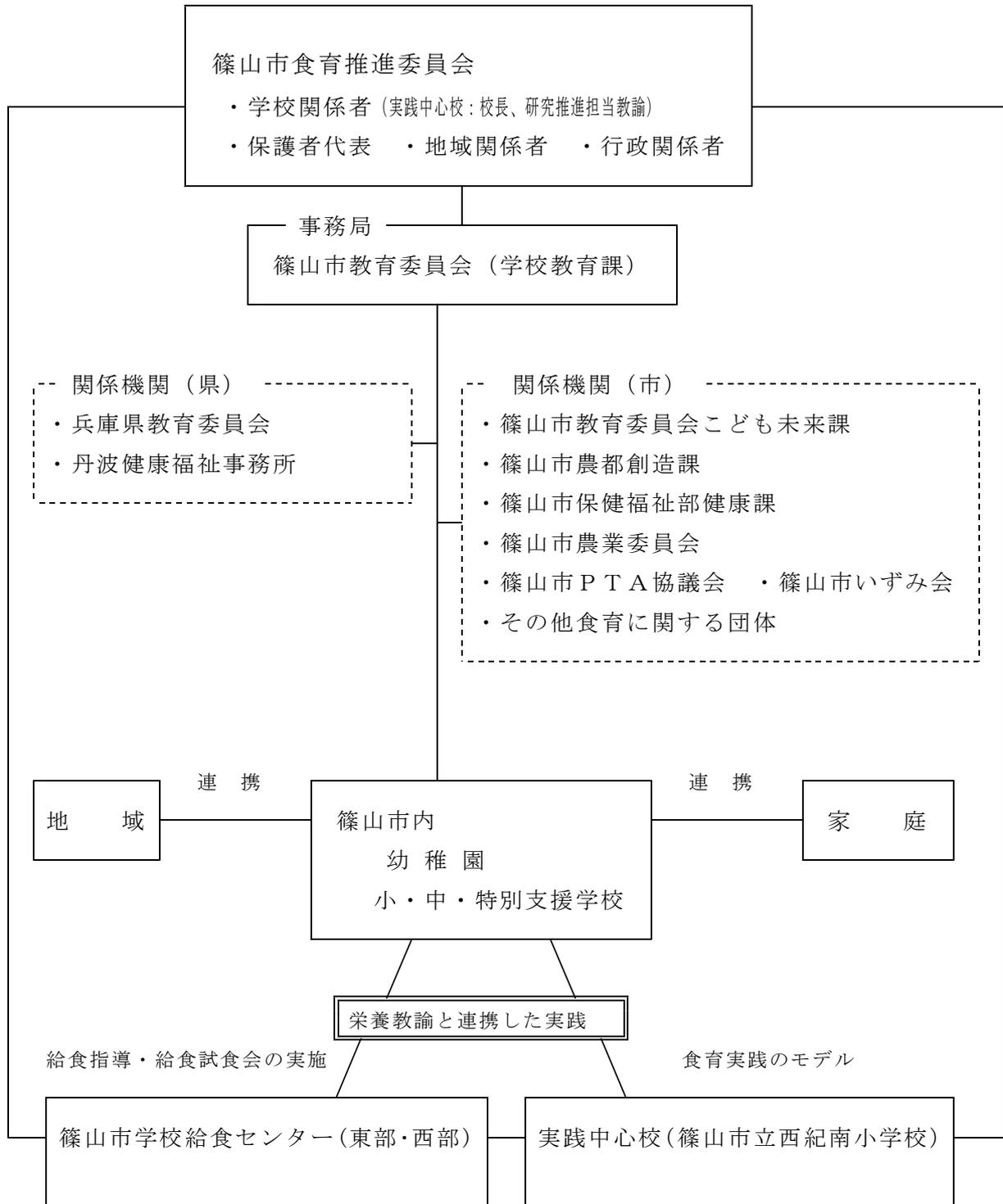


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	兵庫県
推進地域名	篠山市

## 1. 事業推進の体制



## 2. 事業内容

### テーマ1 学校における食に関する指導を充実させるための取組

- 実践中心校の取組を参考にして各学校における食育推進体制を確立し、食に関する指導の全体計画と年間指導計画の整備・見直しを行うとともに、地域住民等の支援を得て、食育の実践を充実させた。
- 栄養教諭が食育コーディネーターとなって、各学校の食育担当者と連携し、チームティーチング等による食に関する指導を積極的に行った。
- 本市の栄養教諭と隣の丹波市の栄養教諭で、食に関する指導の実践を交流し、学習の進め方や効果的な教材の活用など、教科等における取組について研修した。(年間4回)

〈実践例〉

- ・「グッドバランス朝ごはん」
- ・「夏野菜を育てよう」
- ・「親子クッキングでの食指導」
- ・「お正月の伝統食を知ろう」 等



- 栄養教諭が各学校の食育担当者や学級担任、教科担任、養護教諭等と連携し、指導資料や教材の提供、チームティーチング等による食に関する指導の充実を図った。
- 学校給食センターの見学を通して、調理作業の様子や栄養バランスのとれた学校給食について学び、調理されている方の思いにふれるとともに感謝の気持ちを育む活動を行った。
- 実践中心校による研究発表会や授業公開、実践報告書の作成等により、研究の成果を市内の学校に広めた。

#### 《実践中心校である西紀南小学校の取組》

- 研究テーマ

じまんしたい!おいしいふるさと ～よりよい食文化に学び よりよい食習慣を育む～

- 各学年の取組

- ・第2学年生活科「なつやさいをそだてよう」
- ・第4学年総合的な学習の時間  
「自分の生活を振り返ろう  
～グッドバランス朝ごはん～」
- ・第5学年総合的な学習の時間  
「こめっ子プロジェクト  
～作ろう、お米カレンダー～」



- 学校給食の取組

- ・学級担任による指導  
給食指導年間計画に基づき、児童の発達段階に応じて指導を継続的に実施した。
- ・栄養教諭による給食の時間の指導  
栄養教諭が各学級に入り、一緒に給食を食べながらより良い食べ方や食べ物、献立、調理の様子についての話を学年の系統性を意識して行った。

- 研究発表会

- ・平成24年11月15日(木) 13:20～16:30 於:西紀南小学校
- ・授業公開
  - ・第1学年学級活動「こめたろうのへんしん」
  - ・第3学年総合的な学習の時間「地域再発見 われら黒豆調査隊」

- ・第6学年総合的な学習の時間「世界とつながろう！メールdeミール  
～調べたことを発表しよう～」

- ・研究発表
  - ・2年間の取組について
    - ・各学年の取組
    - ・食育系統表
    - ・年間指導計画
    - ・食生活アンケート
  - ・『実践レシピ集』の配付
  - ・講演会

『子ども力～今の自分に役立っていること～』

講師：パティシエ エス コヤマ オーナーパティシエ

小山 進 氏

## テーマ2 学校・家庭・地域が連携した望ましい食習慣を形成するための取組

- 各学校において、地域の農業従事者と連携した農業体験活動を進め、子どもたちが食べ物の大切さ、農業の重要性等について食と農を一体的に体得する教育活動を展開した。
  - ・米作り ・サツマイモ作り ・黒豆作り ・タケノコ掘り いちご狩り 等
- 学校給食センター、公民館等と連携して、親子料理教室（親子クッキング）を実施し、学校給食や食への理解と関心を深めるとともに、家庭における食生活の充実を図った。
- 学校給食センターでは、地産地消の取組に力を入れた。野菜は旬の味を大切にし、篠山の特産物を随時取り入れ、米は篠山産コシヒカリを使用している。地元の食材や特産物を取り入れることによって、学校給食が「生きた教材」になった。
- 保護者等を対象とした給食試食会を実施して学校の食と家庭の食をつなぎ、家庭での食習慣の改善を図った。
- 地域の特色を生かした食と農について考える機会として、学校、地域保健、農業の部署が連携し、保護者や地域住民等を対象に篠山市食育推進大会を開催し、地域ぐるみで望ましい食習慣、生活習慣づくりを進めた。



### 篠山市食育推進大会

- ・テーマ もっと広がる もっとつながる 食育  
～みらいを担う子どもたちに伝えよう！！～
- ・主催 篠山市 篠山市教育委員会
- ・協賛 篠山市歯科医師会 篠山市地域活動歯科衛生士会 丹波たんなん味覚まつり実行委員会
- ・協力団体 篠山市いずみ会 たんば篠山郷土料理友の会 たんば食育支援隊“丹い穂” 丹波篠山食の未来塾 篠山市地域活動栄養士会 兵庫県立篠山鳳鳴高等学校 兵庫県立篠山産業高等学校生活科 兵庫県立篠山産業高等学校丹南校 兵庫県立篠山東雲高等学校
- ・日時 平成24年10月21日（日）9:30～11:50
- ・会場 篠山市立四季の森生涯学習センター
- ・内容
  - （1）講演会  
演題『学校・家庭における食育の推進』  
講師 兵庫教育大学教授 増澤 康男 氏
  - （2）協力団体等による食育に関するパネル展示等
  - （3）報告『食と健康についてのアンケートから』
  - （4）篠山市医師会、篠山市地域活動歯科衛生士会によるゲーム等



## テーマ1～2に共通する具体的計画

- 「第2次篠山市食育推進計画」に基づいた食育を推進する。
- 実践中心校や食育を推進している学校の先進的な取組を広め、各学校園が活用できるようにする。
- 食育推進大会などで、食育についての共通理解や啓発を図り、市全体で望ましい食習慣や生活習慣づくりをさらに推進する。
- 地域が育んできた「食と農」についての関心・知識を深め、地域食材の活用や郷土料理の継承等地域の特色を生かした食育を推進するために、地域の人材や食材を活用した学習計画を立案し、実践する。

## 本事業における評価指標と考察

### ○学校における指導体制等の整備状況

本市では、これまでから各学校において食育推進体制を整備し、栄養教諭と連携した実践的な取組を進めるとともに、保護者に対して家庭における食育について啓発を行ってきた。

平成24年度は、食に関する指導計画を基にして、各学校での具体的な取組の推進が図られることをめざしてきた。市内学校における「食に関する全体計画」と「食に関する年間指導計画」の作成等の状況について、平成24年3月と平成25年3月での状況を比較すると次のような結果になっている。

	24年3月	25年3月
食に関する全体計画の作成	100%	→→ 100%
食に関する年間指導計画の作成	48%	→→ 78%

全体計画の作成については、市内各学校において年度当初に作成し、学校における食育の推進に取り組んでいる。年間指導計画の作成については、昨年度作成のものを見直しを進めている学校も多く、それぞれの学校における具体的な取組が積み重ねられており、今後も食育推進について共通理解を図り、全体計画・年間指導計画の見直しも含めて、食に関する指導をさらに進めていく必要がある。

## 本事業の成果

- 実践中心校においては、食育を柱にした基本的な生活習慣の確立を課題として取組を進めてきた。食育を継続的に推進することで、食習慣や生活習慣が少しずつ改善され、子どもたちが、食に関する知識と食を選択する力を習得し、生涯にわたる健康につながる望ましい食習慣を形成することにつながってきている。また、よりよい食習慣は家庭の力に負うところが大きく、児童の食の実態を把握するとともに、保護者へのアンケート調査を通して学校の食と家庭の食をつなぎ、家庭と連携した食育の推進を図ることができた。
- これまでの実践中心校の取組を参考にして、各学校において食に関する全体計画と年間指導計画の整備・見直しを行い、食育の実践を充実させることができた。
- 栄養教諭が食育コーディネーターとなって各学校の食育担当者等と連携し、指導資料や教材の提供、ティームティーチング等による食に関する指導を推進することができた。
- 各学校において地域の農業従事者等と連携し、子どもたちが食べ物の大切さ、農業の重要性等を学ぶため、食と農を一体的に進める農業体験活動を行うことで生涯にわたる健康につながる望ましい食習慣の形成を推進することができた。
- 地域の人材や食材を活用した学習計画を立案し実践することで、地域食材の活用や郷土料理の継承等地域の特色を生かした食育を推進し、地域が育んできた「食と農」についての関心・理解を深めることができた。

## 今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題)

- 栄養教諭が配置されていない学校における食育の一層の推進  
栄養教諭の所属校以外での食に関する指導等により、各学校において食育の取組が広がってきている。しかし、栄養教諭が市内の全ての学校へ出向いて一律に指導することは難しい現状がある。実践中心校での取組の成果を活用して、各学校の食育担当者等が中心となって、年間を見通した指導計画のもと栄養教諭との連携をさらに図っていくことで、食に関する指導の効果を高めていくことが大切である。
- 児童生徒の基本的な生活習慣の確立と家庭との連携  
給食試食会の実施、食育だよりによる情報提供、学校給食の献立を生かした親子料理教室の開催等により、保護者に対して食育に関する啓発を行ってきた。その結果、食育への関心は高まり、児童生徒の食生活にも改善が見られるようになってきている。今後も家庭への働きかけをさらに積極的に行い、連携を深めながら、食育の取組を充実させていく必要がある。
- 地域の人材や食材の活用を通じた地域との連携  
地域の豊かな人材や豊富な食材を活用した学習計画を立案し、食と農を一体として捉え、地域が育んできた「食と農」についての関心・知識を深め、地域食材の活用や郷土料理の継承等地域の特色を生かした食育をさらに推進していくことが重要である。
- 保育園・幼稚園・小学校・中学校が連携した食育の取組の推進  
保育園・幼稚園・小学校・中学校が連携・協力して学校における食育推進の取組を充実させ、地域の特色を生かしながら、系統性のある指導計画のもと、計画的・継続的・組織的な食育を推進し、子どもたちの生涯にわたる健康につながる望ましい食習慣を形成していくことが重要である。

